



きりんぐみだより

2020年度 10月号
尚徳福祉会生麦保育園



柔らかな秋の日差しが降り注ぎ、少しずつ季節の変化を感じられるようになってきました。進級して半年が経ち、うさぎ組のお友だちに優しく接したり、ぞう組の姿を真似して一緒に遊んだりと年中児らしい姿が多く見られるようになってきました。



～きりんぐみのつばやき～

今までは給食を食べる際に食事が全て揃った子から「いただきます」をして食べ始めていましたが、9月に入り「みんないる?」「OOくんまだきてないよね」と同じチームの子を気にする姿が。その姿を見て、「チームのみんなが揃ったらいただきますをする」という形に変えてみました。すると、今までは食事前の挨拶の際に小さな声になっていた子も大きな声で「いただきます」と言えるように。また、お天気のいい日にはテラスでおやつを食べることを提案すると「遠足みたい」「ピクニックみたいだね」と、とっても嬉しそう。最近ではコロナウイルスの影響で子ども達が楽しみにしていた行事やイベントが中止になってしまっていますが、日々の生活の中に小さな楽しみをたくさん見つけて過ごしていけたらいいなと思っています。



～園庭遊び～

今まで様々なルールのある遊びを楽しんできました。先月は「はないちもんめ」に夢中になっていましたが、最近ではぞう組がやっていた「サークルドッチボール」に憧れを抱き始め、「やってみたい」という声が多くなりました。はじめは2チームに分かれるところから言い合いになったり、自分の思い通りにならず拗ねてとしまったりというような姿がありましたが、回数を重ねる毎に子どもたち同士で話し合って決められるようになってきました。また、負けてしまうのが嫌で最初から「やりたくない」と違う遊びを楽しんでいた子も、他の子が楽しんでいる様子を見て興味が湧いてきたのか、参加することも増えてきました。チームで交代したり力を合わせたりと、今までとは少し違った遊び方をする姿に、成長を感じています。時には互いの気持ちがあうまうと伝え合えないこともあります。側で見守りながら必要な際には援助をし、引き続き「自分たちで話し合う」機会を大切にしていきたいです。



～運動あそび～

残念ながら中止になってしまった運動会。7月から取り組んできた「にじのむこうに」のダンス。発表の時に使う布を、布専用の染料を使ってみんなで染めました。ダンスでは振り付けをすぐに覚えていた子どもたちでしたが、隊形移動に職員も一緒に悩み「できないよ～」ともどかしい表情も。ダンスよりもドッチボールがやりたくてなかなか気分が乗らない子や、「がんばるぞ」とやる気満々の子。自分の立ち位置だけではなくて同じ列の子の場所を覚えていたり、振り付けが分からなくて「やだー」と泣いてしまうことがあったりと一人一人の意外な一面が見え、新鮮な一面を知ることができたとてもいい機会になりました。隊形移動では、初めはなかなかうまくいかずに子ども達もイライラ。初めて保育者の誘導なしで隊形移動が出来た時のみんなの嬉しそうな表情は、保育者にとって忘れられない経験になりました。子ども達の頑張った姿を実際に見ただけでないことはとても寂しいですが、今回の集団での活動を乗り越えて生まれた「友だちを思いやる気持ち」も子ども達にとって大切な財産になっていけばいいな。。と感じました。保護者の皆さまには、ご理解・ご協力いただきましてありがとうございました。DVDも楽しみにしててくださいね。

